

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： コウノトリ定着推進連絡協議会

記入者名： 犬伏

上位関連計画にみる地域の将来

- パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。

徳島県最上位の総合計画である「『未知への挑戦』とくしま行動計画」には重点戦略として、「進化する徳島ブランドの展開」、「生物多様性とくしま戦略の展開」が挙げられており、徳島県環境基本計画には、主要取組の柱の一つとして「エシカルで環境対策」が掲げられており、さらに「生物多様性のゆりかごとくしまの創造」が20の分野の1つとして挙げられている。

○第3次徳島県環境基本計画：コウノトリ育み活動の展開

②具体的なアクション

※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

- ・ 餌場となるビオトープの設置、管理(基金、大学、れんこん研究会、協議会、日本生態系協会、コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会)
- ・ 人工巣塔の設置、管理(県)
- 生物多様性やコウノトリの野生復帰に必要な調査・研究チームを編成(協議会、基金、コウノトリの郷公園)
- この地域の田園環境が農耕地の中で最も生物相が豊かであることを実証し、評価を高める(学生、ボランティア、大学、基金、協議会)
- 親子、消費者が参加する観察会の実施(基金、ボランティア、特定非営利活動法人れんこん研究会)
- エコファーマー技術、特別栽培技術の確立、普及(れんこん研究会、JA、大学、城西高校、基金、市、県)
- 地域農産物のシンボルとなる「コウノトリれんこん」のブランド化及び関連商品の開発、販売(れんこん研究会、松浦酒造、丸喜商店、大学、JA、基金)
- ・ 流通や観光関係企業、官公庁との連携により、都市住民を対象としたエコツアーの仕組み作り(基金、大学、れんこん研究会、協議会、アオアヲ、ツーリズム徳島、コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会)
- 活動を継続するために必要な資金確保のための「NPO法人とくしまコウノトリ募金」の「認定NPO化」、ステークホルダーの獲得(基金、ちいさな地域商社スイミー)
- 広く資金(寄附金、募金等)を集めるため、企業、マスコミ、金融機関と連携(協議会、基金、鳴門ライオンズクラブ、とくしま産業振興機構、日亜ふるさと振興財団、阿波銀行、生協)

①目指すべき姿

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

キャッチフレーズ「コウノトリが舞う笑顔輝く未来に」

地域は、環境にやさしい農業が農地の生物相を豊かにしコウノトリの野外繁殖・定着を実現させていることをアピールし、そこで生産される農産物を大消費地に届ける。

都市(消費者)はコウノトリを支えている農産物や地域の取組の価値を認め、その農産物を優先的に消費し、地域の取組を支援する。これによって人と金が都市から地域へ流れ、農産物の再生産と環境保全の取組が維持・拡大できる。

農産物をはじめとしたコウノトリブランドの拡大や、多様な生物が生産する環境保全という地域の信念に共感し、若者をはじめ様々が人材が定着し、環境保全と生産の担い手が確保される。

このような地域循環共生圏を形成することによって地域は、コウノトリを核とした地域の「価値」が、地域と都市を循環し、より大きな「価値」を生み出し続ける「コウノトリが舞う国土づくり」を実現する「価値」の循環モデルになる。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	動植物の状況	コウノトリの繁殖ペア数	1	2	1	ペア
	動植物の状況	コウノトリの生息数(月平均滞在数)	15	20	20	羽
	農地の状況	環境にやさしい農業取組面積	104	110	122	ha
	地域の取組状況	ビオトープ設置数	2	5	8	箇所
経済	財源が充実する	コウノトリおもてなしれんこん販売額	140万	200万	140万	円
	ブランド拡大	コウノトリを活用した商品数	3	5	6	商品
	財源が充実する	売上から寄付する商品数(基金認証)	0	7	7	商品
	事業拡大	エコツアー実施回数	0	3	5	回
社会	郷土への愛着・地域の誇り	コウノトリの保全活動への寄付者数	5	130	190	名・団体
	郷土への愛着・地域の誇り	商品から寄付する認証制度への参加企業数	0	5	6	団体
	行動が変わる	ボランティア参加者数(のべ)	0	100	50	名

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	動植物の状況	コウノトリの営巣地拡大	1	2	2050	5	市町
	地域の取組状況	豊かな自然の維持活動が活発化	2	3	2050	4	JA
	地域の取組状況	環境にやさしいコウノトリ認証農業の広がり	1	2	2050	4	JA
経済	ブランド拡大	コウノトリブランドの知名度向上	643	643	2050	650	億円
	地域外から稼いでくる	地域資源とともに主要な観光地となる	0	1	2050	10	団体
	財源が充実する	地区の農業生産額向上	113	113	2050	130	億円
	財源が充実する	認定NPOによる活動資金の確保	0	200	1,000	会費、寄附金	万円
社会	行動が変わる	来県者、関係人口の増加	100	200	2050	1000	%
	郷土への愛着・地域の誇り	県内外から人が集まる学びの場	100	200	2050	2000	人
	市民の関心が高まる・認知度が高まる	地域循環共生圏の理解度	1	10	2050	100	%

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

この取り組みでは地域の「経済」的な価値、「社会」的な価値、「環境」的な価値をバランスよく高めていく必要がある。

現在は「環境」的な価値が高いことから、「経済」的、「社会」的価値の指標を充実するとともに高めていく。

そして、「経済」的な価値と、「社会」的な価値にしっかりと支えられながら、「環境」的な価値を高めていく状況をつくることで、地区に深く根付いた取り組みとなることを目指す。

長期指標は、短期指標を地区の状況を見て継続性を担保しながら、ゆるやかに積み上げてゆくことで、2030-2050年には吉野川流域地区内にSDGsが浸透し、成熟することで達成される。

そして長期指標が達成された地区は、県内外から人が集まり地域循環共生圏の目に見えるモデルとして、SDGsについての人々の理解と協力を啓発する。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください